

ひだまり



MOTHERTH

MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED

そこに 笑顔あふれる あなたの 居場所



コロナ禍
それでも仕事が楽しくて
笑顔で働いて！



基本理念

「何ごとでも人々からしてほしいと望むことは人々にもそのとおりにせよ」

この理念は、イエス・キリストが山上で弟子たちと群衆に語った「山上の垂訓（さんじょうのすいくん）」と言われる新約聖書内のマタイによる福音書第五章から七章にある一節である。



カール・ハインリッヒ・ブロッホ (デンマークの画家) 1877

新約聖書マタイによる福音書第7章7節から12節から引用されている。一連のキリストの説教の中の1節であり「黄金律」と呼ばれています。

世界の名言といわれるものの中に、聖書のことばがたくさんありますが、なかでも、マタイによる福音書五章から七章にわたって記録されているイエス・キリストの説教には、宝石のようにきらりと光り輝く名言が少なからず出てきます。「あなたがたは地の塩である」「目はからだのともしび」「豚に真珠」「求めよ、さらば、与えられん」「狭き門よりははいれ」など、日常会話の中でもしばしば用いられてい

るこうした名言は、今から二千年前、ガリラヤ地方のとある小高い丘の中腹でイエス・キリストが語ったものです。山上の垂訓とよばれているこの教えは文学的にもすぐれています。荘重で流麗な文体、しかも簡潔で具体的な表現。想像力をかきたてる生き生きとした絵画的描写。丘の中腹にいる群衆ならずとも、いつのまにかそのすばらしさにひきつけられてしまいます。世界の文豪トルストイがイエス・キリストの山上の垂訓を小聖書とよんで愛読したのもなるほどどうなずけるような気がします。

法人設立20周年記念号(2014年11月)から抜粋



編集後記：今回から理事長に「マガアスの歩み」を語っていただくことになりました。6回シリーズです。乞うご期待です。・・・わたしたちがマガアスの基本理念に触れる機会はいつでしょうか。就職したときでしょうか。マガアスの創設者が心を思いを込めたこの理念は今もマガアスの中で輝いています。キャッチコピーも相手の立場に立って、品性、慈しみ、愛を持って、仕事をなさっているみなさまの姿勢も、この基本理念から来ていると思います。コロナ禍ではありますが、時が良くても悪くても、それを励みとして働いているのだと思います。(草野)

「マザアスの歩み」シリーズ①/⑥

今回から6回シリーズでマザアス創設者でもいらっしゃる理事長にお願いしました。6回と言っても年に3回の季刊誌なので2年かかりで語っていただく予定です。マザアスで働くみなさま、ご利用者、ご家族、関係者の方々がマザアスの歩みはこうだったのか。と、知っていくことが楽しみとなり、また裏話も期待しているところです。(編者)

誠実に対応することから

理事長 高原敏夫

法人の認可を得たのが1994年10月、特別養護老人ホームマザアス東久留米の開設は1995年5月、以来日野市、新宿区に事業拠点を設けて今日の姿がある。

この26年間「社会福祉は地域のニーズに誠実に対応することからはじまる」を合言葉に歩み続けてきた。

介護保険制度がスタートは2000年4月、当時東久留米事業所では重度、介護困難なケースはニーズが高いことを意識して対応してきて、制度変更後入所者の平均介護度は市内で高い方に位置付けられた。介護保険によって措置入所から個人の選択による入所が変わり、収入も措置費から介護度でランク付けされた料金が保険から支払われるように変わった。平均介護度が高ければ、それだけ収入は多いことになる。

時の流れと共に介護環境が変化してきた。入所者の平均介護度は高くなり、介護保険の見直しは定期的に見直されてきたが収支差額は伸びず、労働力不足が深刻な問題になってきた。措置入所時代が長い法人はそれなりに体力がついているが、介護保険導入前後に発足した法人は全体的に体力が弱い傾向がある。施設運営は収支のバランスが注目され、現場では能力にあった利用者を選ばざるを得ない状況になってきた。

高齢者福祉事業は社会福祉法、老人福祉法、介護保険法によって成り立っている。

「介護保険」だけでなく「福祉」が帽子となっていることに注目しなければならない。

「福祉」を説明するには紙面がたりないが、群馬県立高校福祉学科一年生の『社会福祉は「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせを意味する』と書いているが、これで説明できていると思う。法人の置かれている環境は厳しいが、福祉事業の原点に返って、個人や家庭、地域や社会のニーズに目を向け、気づいて、それに誠実に対応するならば、その先に経営が成り立つことを信じて歩みを続けるのが社会福祉法人ではないだろうか。

留学生アルバイトさん活躍中



敬老会では浴衣姿で炭坑節を披露！！

東久留米拠点では、武蔵野大学別科介護福祉士養成課程に通う留学生5名を、6月からアルバイトとして迎えました。みなさん、学業の傍ら熱心に仕事に取り組んで、介護現場の戦力として成長しています。日本語も上達しました。



国家試験合格を目指して猛勉強

マザアス日野から

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、ご家族の面会を原則としてご

遠慮いただいたり、イベントなどについては中止をしたり、対応を講じておりましたが、徐々に再開をしているところです。ご家族の面会については、5月から「ZOOM」を用いたオンライン面会を行っております。そちらに加えて、時間や頻度を限定した事前予約制の面会を実施し始めました。また、従来は地域の方をお招きして開催していた秋まつりについては、規模を縮小し、施設内のみで各フロアの開催としました。先月は上記「ZOOM」を用いて、施設内部の研修を開催した他、オンラインの音楽療法やご家族も参加されるケース会議の開催を模索しているところです。オンライン面会では、海外にお住まいのご家族とも面会が実現したり、オンライン研修では離れた事業所の職員も参加し易かったり、様々な副産物も生まれています。ピンチをチャンスに変えます。感染症対策備品が手に入りやすかったり、高騰したり、未だ厳しい状況が続いています。そのような中でも、手作りマスクをご寄付頂くなど、同じく辛い状況にあるご家族にも、力強く支えていただいていることに感謝致します。品薄の備品は、職員が自身の買い物に出かけた時に見かけたら、買ってきてもらう等しています。ご家族や地域に支えていただき、職員も総力で乗り切ります。



マザアス新宿から

10月2日金曜日、第2回新宿区新型コロナウイルス対策医療介護福祉ネットワーク会議に参加させていただきました。新宿区医師会が中心となり、医療と介護の地域ネットワークを作り、地域の高齢者を支える試みです。夜の街、新宿と名指された新宿は、日本一、多くの人、モノ、民族が交わる場所、当初は世田谷区がリードしていましたが、歌舞伎町でクラスター発生以来6/14新宿区が抜き、ダントツでトップをひた走ることになりました。

新宿で医療介護の仕事を支えざるを得ない私たちはいつ自分に感染するか、ひいては利用者に感染させてしまうのか。多くの職種の方々が「自分ごと」として向かい合わなければならない事態に直面されています。

これを、災難と取るか、人生初のチャレンジと取るか。医療介護はこの町に住む人たちのためにあるという仕事の原点を思い出して日々コロナ禍と向き合っています。



web会議で今回はシンポジウム形式で特別養護老人ホームの代表ということでシンポジストとして参加させていただきました。急性期、在宅診療、訪問看護、歯科、ケアマネ、デイサービス、クリニック、多様な分野からのシンポジストからの報告があり、新宿というコロナ最前線でいろいろなことが起きていたことを知ることができたように思います。わたくしも医師会の方々や新宿区(行政)の方に施設の現状を訴えるよい機会をいただいた気がします。コロナがきっかけではあるが、これを機会に医療と介護、地域の連携がはかることができれば、新しい地域包括ケアが見えてくるように思えた時間でした。(高岡)